

島根県海士町

【活動概要・効果】

☆「島の未来は自ら築く」生き残るための覚悟と二つの戦略

○財政が悪化し、島の存続さえも危うい緊急事態に直面したが「島の未来は自ら築く」という信念のもと、①覚悟の単独町制を選択、②生き残りを掛けた「守り」と「攻め」の両面作戦を同時並行に実施という「海士町自立促進プラン」を策定し、徹底した行財政改革を行うとともに、新たな産業の創出を強力に推進している。

☆「守り」の戦略として職員の給与大幅カットは、「未来への先行投資」という意識へと変化し、職員のモチベーションは以前にも増して高くなった。地域住民からも自助努力の申し出があるなど、住民の共感も得ることができるとなった。

☆「覚悟」と「気概」「危機感」を住民と共有し、住民自らが「生きる術」を模索し、厳しくとも産業振興によって自立の道を歩もうという気運が芽生えてきた。

☆「攻め」の戦略として、「海」・「潮風」・「塩」の三つのキーワードを掲げ、産業を興し、人と雇用の場を増やし、島の活性化を図ることに力を入れている。平成16年からの3力年で78世帯、145人がターン者を中心に定住し、地域ブランドも創出されている。



情報発信・交流拠点施設 キンニャモニャセンター

《人員確保での工夫・苦労》

平成10年より外部の発想と視点を取り入れた、商品開発研修生制度により、これまで全国から多くのターン者が本町に訪れています。この継続的な取組と交流事業等により情報の発信力と受入体制が徐々に整い、新産業に係る人員募集等においても多くの問い合わせや応募がありました。

第一次産業の再生を基本理念に置く、「ものづくり」の本質と自身のライフスタイルを本町に求めてくる人材は大きな力となって、地域資源を活かした起業化も始まっています。

《活動資金確保での工夫・苦労》

「守り」の戦略である行財政改革は、未来への先行投資という意識が、行政はじめ町全体に広がりを見せ、財政面で大きな基盤となっています。しかし、産業振興を更に強力に推進するためには多額の資金確保が必要です。

特に島と本土を行き来する費用、例えば人材育成に掛かる経費などは経営に大きく影響し、離島の小規模企業が島外に販路を展開する際の大きな壁でもあります。このため本町は地域再生計画による支援措置を活用するほか、あらゆる関係機関に情報のアンテナをはり、マッチングする支援事業等の情報を得ることに努めています。

【現場の声】

「地域づくり」の原点は、「島の未来は自分たちが切り拓こう」という職員一人ひとりの「高い志」と住民の理解と協力に尽きます。島の埋もれた資源に着眼し、「島じゃ常識！サザエカレー」の商品化や「隠岐海士のいわがき・春香」など、生産者の発想と思いを形に首都圏をターゲットに挑んできました。そして、水産物の高付加価値化を図るべく、新凍結技術の導入や異業種からの農業参入による隠岐牛ブランド化等の、新産業に取り組んでいます。

このような産業振興に必要なのは、生産・流通・販売に精通する人材の育成・確保でしたが、商品開発研修生の制度や、行政の支援事業等をフル活用することで、課題解決を図ってきました。

島独自の環境資源の活用を、島内外の人々との交流とネットで根気よく取り組んできたことが、地域の活性化にも連鎖したと言えます。

～海士町役場地産地商課



いわがき共同作業施設